

ファーラービーの倫理思想

美学思想との関係を中心に

ムフタル・アブドゥラフマン (九州大学人文科学研究院)

ファーラービーの哲学体系においてはその核心である理想的国家論のみならず、倫理学と美学思想もまた重要な位置を占めている。ファーラービーが倫理学をとりわけ重要視するのは、倫理学が理想的国家の構造に関する理論的意義を持つからというだけでなく、現実世界において人間がいかにか生きべきかという実践的意義こそが彼にとって最も重要であったからである。ファーラービーが体系的に完成させ表現した倫理思想は、人類の哲学思想史的意味を持つ理性主義に基づいている。

彼の倫理思想は、道徳の社会性、非生得性、理性と教育との緊密な関係などの特徴を持つ。

ファーラービーによれば、道徳は生得的なものとして自然に形成されるのではなく、教育や教養による後天的に獲得されるものである。それゆえに、道徳の問題はまた教育の問題と結びつけて考えられなければならない。ファーラービーにとって、あらゆる人間は生まれながらにして理性を発展させる能力があり、その点で皆平等である。ファーラービーのこのような考え方はプラトンの道徳思想に対する批判であり、また特に中世神秘主義・精神主義 (ROHANIYETCHILIK) 思想に吸収される新プラトン主義の道徳思想に対する批判であった。何故ならば、彼らは、奴隷には理性的な能力を認めていないからである。

ファーラービーは次のように語る。「我々の考えによると……あらゆる道徳的特質は獲得されるのである。……人間の道徳的特性を獲得する、あるいは一つの道徳からもう一つの道徳に移る……などのことは習慣化と密接に関係する。あらゆる活動は長期的に反復練習することによって形成され生成する。つまり、美德も習慣化することによって形成される」。

ファーラービーによると、生まれたばかりの人間はいかなる道徳的人格をも持たず、道徳性は人間が他者と関わり合いながら知性を発展させることによって理解される。ファーラービーの考えでは、科学的知識などの学知、芸術や技術、良い風俗習慣、道徳法則などはイスラムが教えるように、特権階級の人々にも無条件に与えられるものではない。

ファーラービーの意見では、人間は世界を認識し把握する可能性を持つ、つまり真理に対して開かれている。それだけでなく、輝かしい理想的社会を形成し発展させる可能性を持つ、つまり現実世界において幸福を獲得することができる。幸福は自然に与えられるものではなく人間の努力によって獲得されなければならない。

ファーラービーは、こうした幸福を獲得する道を個人の観点からではなく、人類の観点から考えて、社会政治哲学のプログラムを構想する。彼によれば、倫理学と政治学は人間の自由意志と密接に関わる。人間の意志は自由選択の能力に関連し依存する。

ファーラービーは、ヒューマニズム的性格の市民的諸科学 ILIM EL MEDENIYE を市民的政治的哲学 (GIRAJDANLIQ SIYASET PELESEPESE) とも名づける。それは幅広い範囲を、

つまり、国家論的な法学、道徳、教育学、教育論などをも含んでいる。彼の考えでは、政治哲学の諸分野は、人類を幸福へともたらす真理を研究し、確定することを任務として展開するべきである。

ヒューマニズム的政治哲学は『幸福を獲得する道』において二つに区分される。

ファーラービーの人文主義的政治プログラムは『国家政治論』、『有徳都市の住民が持つ見解の諸原理』において示される。彼は、民衆を教育すること、ボトムアップ式にそれぞれの人間が自ら自己開発することを要請している¹。

ファーラービーの考えによれば、理論は実践と切り離すことができない。理論的知識は実践的活動に従って、実践的活動を基準と基盤にするからこそ根本的知識と考えられる。ファーラービーは、公正の理念を抱き、中世の不正と不平等や独裁専制制度、圧迫と侵略の戦争などと現実的に激しく対立し、人類の平等な将来のために理想的社会の哲学的原理を考察した。彼は自らのモデルを「有徳都市」と名づけ、自らのすべての嫌悪する社会を「無知暗闇の都市」と名づけた。(脚注付き)「無知暗闇の都市」はいずれ「有徳都市」へと変化発展しなければならない。

暗く重苦しい中世の時代状況にありながら、ファーラービーは偉大な啓蒙思想家として、無抑圧、公正ないし正義的、有徳的、理想的社会およびそこへ至る平和の道を切り開いた創造者²であった。人類を理性的 (真)、道徳的 (善)、そして美学的 (美) へと向けて発展させて、幸福を獲得させるために生涯を尽くし闘争し続けた。

本発表のねらいは、以下のことを明らかにすることにあつた。(1) ファーラービーの倫理思想が、彼の理想的国家論のための基礎に位置つけられること。(2) ファーラービーの美学思想が、彼の倫理思想と根本的に統一性を持つこと。(3) 美学思想の根本としての真善美の諸原理は、宇宙の法則の根源的原理と一致すること。

ファーラービー哲学を貫くのは、善の実践的展開という熱い人文主義的思想である。彼のあらゆる思想体系はここから生まれ、あらゆる著作においてその深い痕跡を残している。ファーラービーは本来の意味での有徳文明の基盤を創造するために闘争する哲学者であった。彼は宗教的イスラムや中央アジアといった局所領域のただのローカルな思想家ではなく、むしろ、人類の哲学思想史的意味を持つ思想家である。

¹ ファーラービー自身、科学研究と哲学のために全生涯をささげた。これは彼が人文主義者としての哲学者であることを示している。次の詩が残されている。「私の人生は二本のガラスのコップで終わりに至った、私はすべての情熱をそれに溢れるまで注いだ、ひとつのコップには真っ黒の墨汁が溢れている、もうひとつには香りの酒が溢れている、ひとつに入れたのは哲学の結晶である、もうひとつで心のすべての苦悩を完全に洗い流した」。この詩は最初アラビア語で書かれた。ロシア語は E. ベリテレスに依る。『ベリテレス著作集』第一巻、113 頁参照。

² フスウン・アリ・マフフズ『アラビア文献におけるファーラービー』1975 年、バグダッド版、参照